

米とブロッコリー・児童が畑を見学



J A筑紫は、筑紫野市立筑紫東小学校の社会科見学を受け入れ、米とブロッコリーの栽培について授業をしました。

3年生が、ブロッコリー畑や農業機械倉庫などを見学。圃場を管理する生産者の田中修一さんも講師として授業に参加し農業機械や水路などを児童に見せながら、説明しました。

児童からは、「ブロッコリーの種はいつ植えるの?」、「どういう流れでお米になるの?」など、次から次へと質問があがりました。

この授業は社会学習の一環。筑紫野市の農産物や、生産者について学ぶことが目的。児童は、学習の成果を高めるために、生産者から聞き取ったことをまとめ、新聞を作成しています。

社会科見学を受け入れた田中さんは「子ども達には食べ物大切さを知ってほしいです。また、実際に生産者から農業について学ぶことで、農業に携わる職業に興味を持ってくれたら嬉しいです」と話しました。

東峰村に義援金贈呈



J A筑紫御笠支店と阿志岐出張所の店舗運営委員会は、福岡県朝倉郡の東峰村役場へ2017年に起きた「九州北部豪雨」災害復興のための義援金を贈りました。義援金は、10日に筑紫野市吉木の御笠コミュニティセンターで開かれた「御笠市民文化祭」で販売したうどん180杯分の売り上げです。委員会のJA地元理事中原岩義さんが、高橋英治副村長へ手渡しました。中原さんは「義援金が復興に少しでも役に立つと嬉しいです」と話しました。

東峰村は17年に起きた豪雨により、川の決壊や土石流が発生するなど、過去最大規模の被害を受けました。災害から2年経過した現在も、農業や林道、水道など災害を受けた箇所工事を行い、完了している箇所は40%ほど。まだ工事に取り掛かっている箇所も複数あります。

この取り組みは、近隣の村で起きた災害を風化させたいいけないという思いで企画。委員会は、ふれあい活動の一環として参加した文化祭で「義援金うどん」を販売し、売り上げを東峰村へ全額寄付しました。

高橋副村長は「義援金をいただき、大変感謝しています。復興のために大切にに使わせていただきます」と話しました。

ブロッコリー出荷最盛



JA筑紫ブロッコリー部会は11月13日から、筑紫野市の選果場で、ブロッコリーの出荷をはじめました。9月に定植し、11日に収穫したブロッコリーを1つ1つ箱に氷詰めしました。初日は、ブロッコリー96kgを福岡県の市場へ出荷しました。

2019年産は、部会員22名で約17ha作付。来年4月中旬まで収穫が続き、約86tを目標に、JA直売所「ゆめ畑」や県内の市場に出荷する予定です。

今年の生育は、雨により定植が遅れましたが、天候にも恵まれたため、おおむね順調。色づきや形が良く花蕾（からい）も凝縮しており、品質は良好です。

現在、「ピクセル」の出荷。11月下旬には「おはよう」、12月下旬には新品種の「こんにちは」の出荷が始まります。

収穫作業を行った(株)JAアグリサポート筑紫の職員は「今年産も高品質なブロッコリーができました。今後も安定した出荷に努めたいです」と話しました。

第17回趣味・文化グループ活動発表会

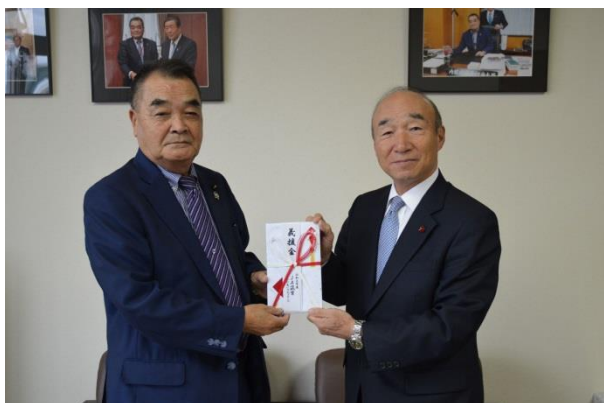


JA筑紫女性部は11月15日、本店で第17回趣味・文化グループ活動発表会を開きました。日頃の成果を発表すると共に、一人ひとりの生活を大切にしながら学ぶ場をつくり、新しい展開へ繋げる活動することを目的としています。

各活動グループと応援に訪れた参加者は263名。健康体操やフラダンス、歌などを舞台上で披露。会場は曲に合わせて手拍子をするなど、大いに盛り上がりました。また、ロビーには、さげもんや生け花、手芸品などの作品や活動の様子を撮った写真が展示され、会場を華やかに彩りました。

ステージで発表した参加者は「緊張しましたが、日頃の成果を披露することが出来て、とても楽しかったです」と笑顔で話しました。

九州北部豪雨や台風被害の復興支援 義援金贈呈



JA筑紫は、九州北部豪雨や台風被害を支援するため、義援金をJA福岡中央会へ届けました。義援金は、JA筑紫が組合員や利用者などを対象に開いた「ふれあいゴルフコンペ」の参加費の一部と合わせたものです。JA筑紫の白水清博組合長が、JA福岡中央会の倉重博文会長へ手渡しました。中央会を通して被災地へ送られます。

白水組合長は「組合員と利用者が協力してくれた義援金を復興に少しでも役立ててほしいです」とあいさつ。倉重会長は「寄付してくれた方に大変感謝しています。復興のためにありがたく使わせていただきたいです」と話しました。

ふるさとまつり農産物品評会表彰



JA筑紫は11月22日に本店で、第40回JA筑紫ふるさとまつり農産物品評会を開きました。JA管内の生産者が出品した野菜や果実、花など564点から、優秀賞20点、優良賞31点を選出。23日に行った表彰式では、最高賞の福岡県知事賞に輝いた中西守さんをはじめ、特別賞を受賞した生産者16名のうち10名を表彰しました。

品評会は毎年、JAが生産者の意識の向上や農産物の品質の向上を図る目的で開いています。福岡農林事務所福岡普及指導センターの今泉美紀センター長を審査委員長に、審査委員11名が品種の特徴や揃い、品質、商品性などを審査しました。

出品した農産物は、第40回JA筑紫ふるさとまつりで一般公開され、販売。当日は、品評会に出品された品質の良い農産物が購入できるということで、多くの来場者で賑わいました。

購入した来場者は「毎年買いに来ることを楽しみにしています。早く家に帰って調理し、買った野菜を味わいたいです」と笑顔で話しました。

ふるさまつり 大盛況



JA筑紫は11月23～24日の2日間、筑紫野市のJA本店で、組合員や地域の方々に日頃の感謝を含めて、第40回JA筑紫ふるさとまつりを開きました。イベントは、2日間で約8千人の来場者で賑わった。会場では、テレビやラジオの取材も入り、会場の様子を伝えました。

毎年大人気の焼肉弁当コーナーでは、JA肥育牛部会の「博多和牛」を使った焼肉弁当が味わえると、販売が始まる前から長蛇の列ができました。また、組合員や女性部、青壮年部、職員らによる農産物販売や模擬店なども行いました。

ステージでは、農産物品評会の表彰式を開きました。その他、第40回記念イベントや組合員の演芸大会、福岡農業高校の生徒による「福農太鼓」の演奏やファッションショー、地元の子どもグループのダンス披露などが行われました。

向佐野支店「起工式」



JA筑紫は11月28日、太宰府市向佐野で「向佐野支店起工式」を行いました。式には、JA理事や役員、地元評議員、建設会社関係者等32名が出席し、工事の無事を祈りました。

神事が行われたあと、JA筑紫の白水清博組合長は「組合員、利用者の皆さまに愛され、親しまれる店舗を運営していきたいです。まずは安全第一に立派な店舗を建ててください」と挨拶しました。

向佐野支店旧店舗は、1973年2月に新築開店。今回建て替える新店舗は、約619㎡の敷地面積で、2020年8月にオープンを予定しています。